

平成 2 8 年 度
ひきこもりに関する実態調査
報 告 書

平成 2 9 年 2 月

茨城県保健福祉部障害福祉課

I 調査の概要

1 目的

茨城県では平成23年6月から「ひきこもり相談支援センター」を開設し、ひきこもり問題に悩む当事者や家族への支援をしている。ひきこもり相談支援センター開設から5年を迎え、今後の支援のあり方を検討していくうえで、県内全域のひきこもり者の実態を把握する必要があると考え、本調査を実施した。

本調査は一般財団法人茨城県民生委員児童委員協議会、各市町村民生委員児童委員協議会、各地区民生委員児童委員協議会、各地区担当民生委員・児童委員、各市町村民生委員所管課のご協力を得て、アンケート方式で実施した。

2 調査項目

- (1) 該当者の有無について (問1)
- (2) 過去の該当者の有無について (問2)
- (3) 該当者数について
- (4) 該当者の属性について (問3)
 - ア 性別
 - イ 年齢
 - ウ 家族構成 (複数回答可)
 - エ 外出の状況
 - オ 期間
 - カ 経緯 (複数回答可)
 - キ 支援状況 (複数回答可)
 - ク 気になる点
- (5) 自由記入 (問4)

3 調査対象

茨城県内にいる全民生委員・児童委員 (5,261名)

4 調査時期

平成28年6月～平成28年12月

(県障害福祉課が市町村へ調査票配布してから調査票が県障害福祉課に届くまで)

5 調査方法

(1) 配布方法

県障害福祉課から各市町村へ調査票を郵送，市町村が民生委員児童委員協議会の定例会等で調査票を配布。

(2) 回収方法（下記ア又はイのいずれかの方法で回収）

ア 民生委員児童委員協議会の定例会等で調査票を市町村が回収，市町村から県障害福祉課宛て郵送。

イ 各民生委員から県障害福祉課宛て直接郵送。

6 回収結果（回収率）

2, 542人（48.3%）

II 調査の結果

(1) 該当者の有無について

【質問】

問1 あなたが受け持ちの地域に、次に該当する方は現在おられますか。

(1) 15歳から65歳前後の方で、次のいずれかに該当する方

- ① 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の方
- ② 仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流はないが、時々買い物や自分の趣味のために外出することもある方

(2) 上記に準じる方で、ニートなど、民生・児童委員の皆様から見て心配な方、また、家族の方からご相談があった経験のある方

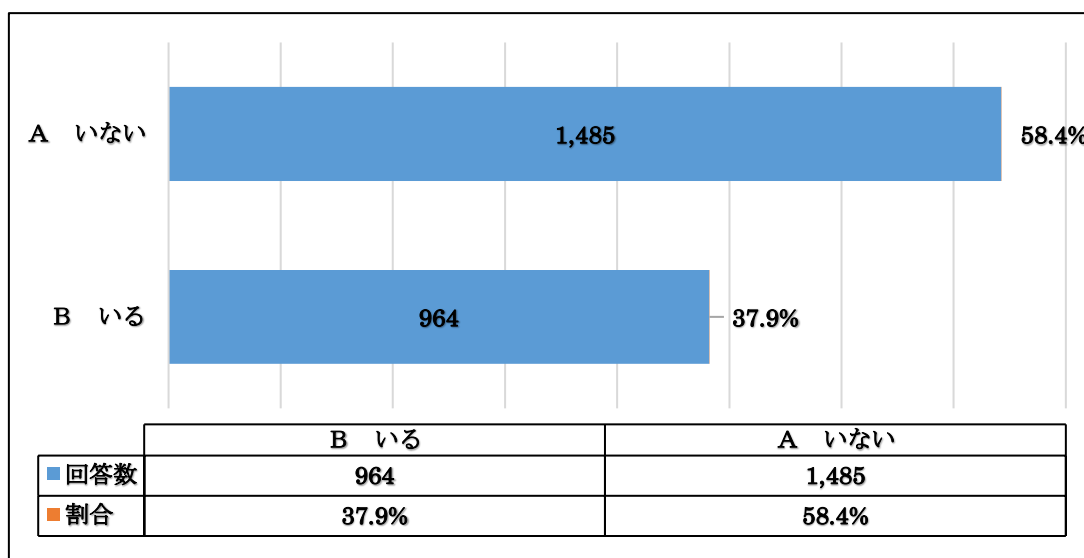
※ただし、重度の障害や疾病のため外出できない方を除きます。

ニートとは、就学、就労、職業訓練のいずれも行っていない若者の方です。

【回答】

964名が担当地区内にひきこもりに該当する又は類似する方がいると回答している。

(対象人数 n=2,449)



(2) 過去の該当者の有無について

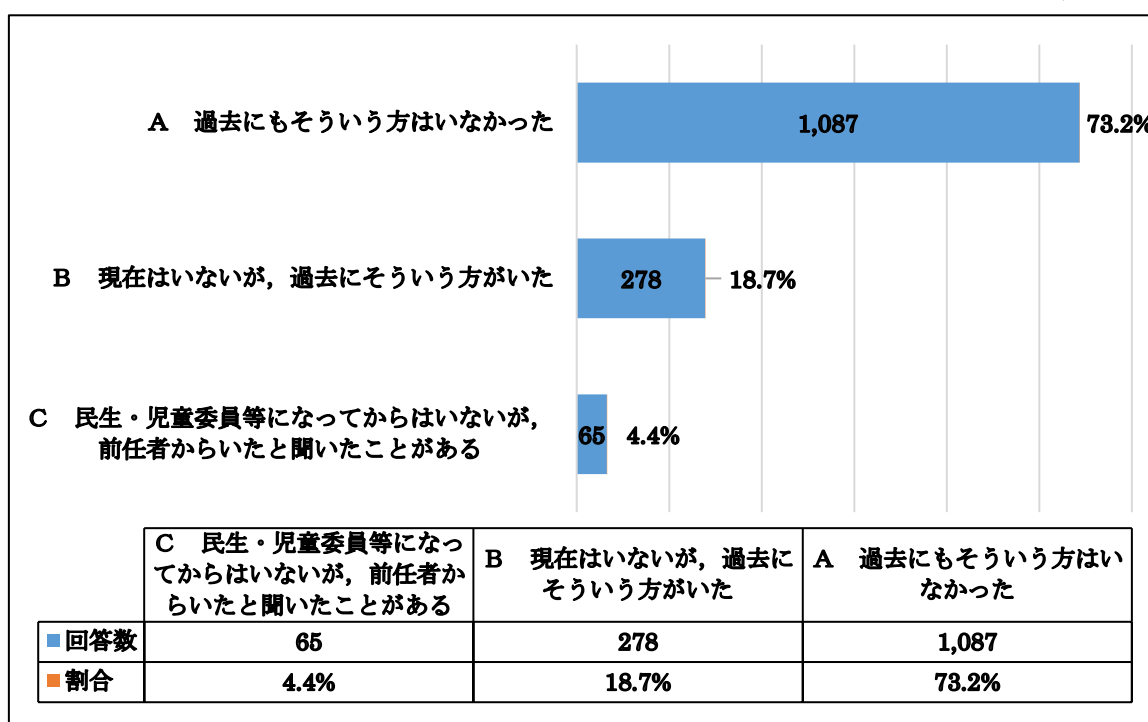
【質問】

問2 問1で「いない」とお答えの場合、過去の状況はいかがですか。

【回答】

1,087名が過去にもひきこもりに該当する又は類似する方はいない、278名が現在はいないが過去にそういう方がいた、65名が民生・児童委員等になってからはいないが、前任者からいたと聞いたことがあると回答している。

(対象人数 n=1,485)



(3) 該当者数について

調査票に記載してある該当者の人数を集計した結果、ひきこもり該当者は 1,467 名となっている。

(4) 該当者の属性について

【質問】

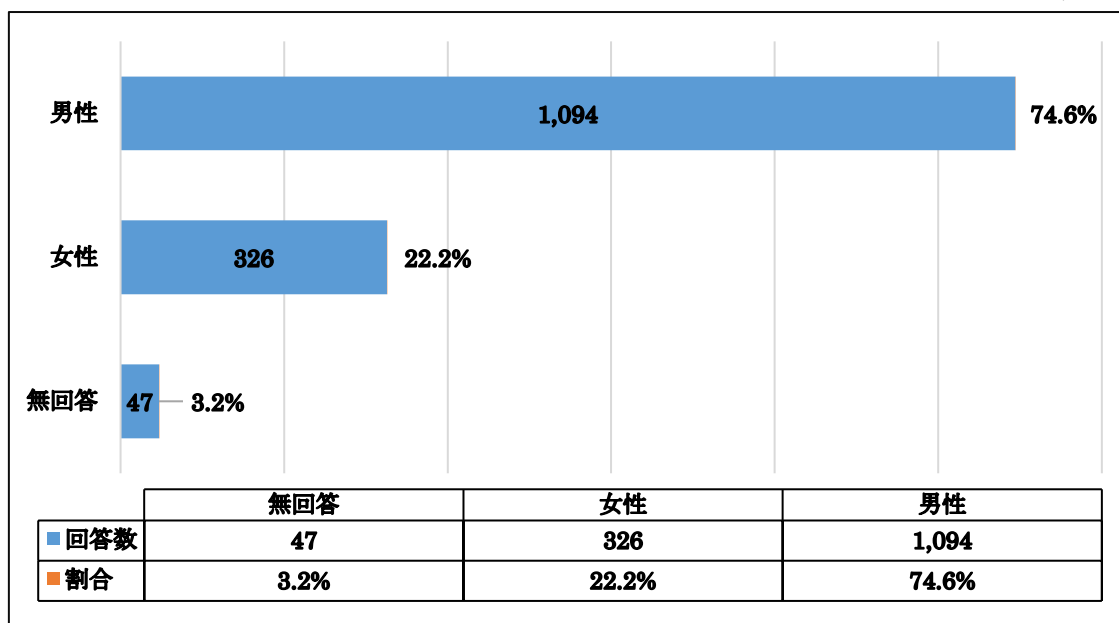
問3 問1で「いる」とお答えの場合、その状況を教えてください。

【回答】

ア 該当する方の性別

該当者の性別は、男性が 1,094 名、女性が 326 名、無回答が 47 名となっており、男性が女性の約 3 倍となっている。

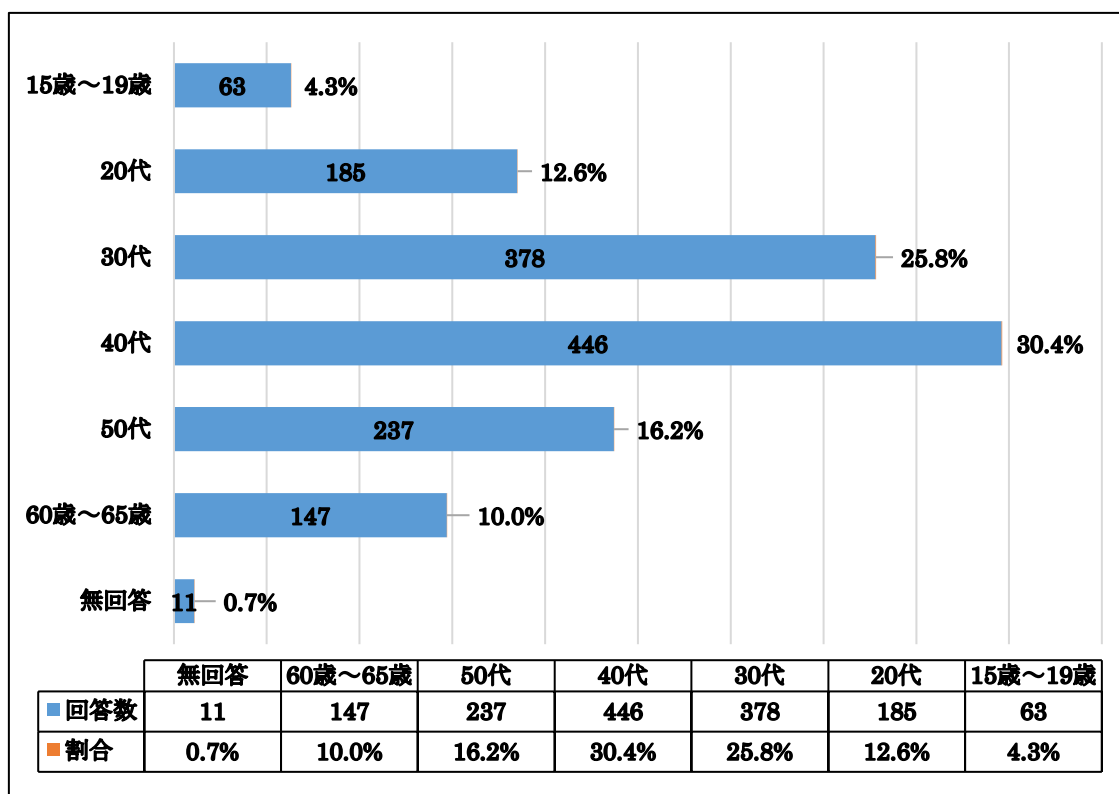
(対象人数 n = 1,467)



イ 該当する方の年齢

該当者を年齢別にみると、40代が446名と最も多く、30代が378名、50代が237名、20代が185名、60歳～65歳が147名、15歳～19歳が63名となっており、40代と30代で過半数を占めている。

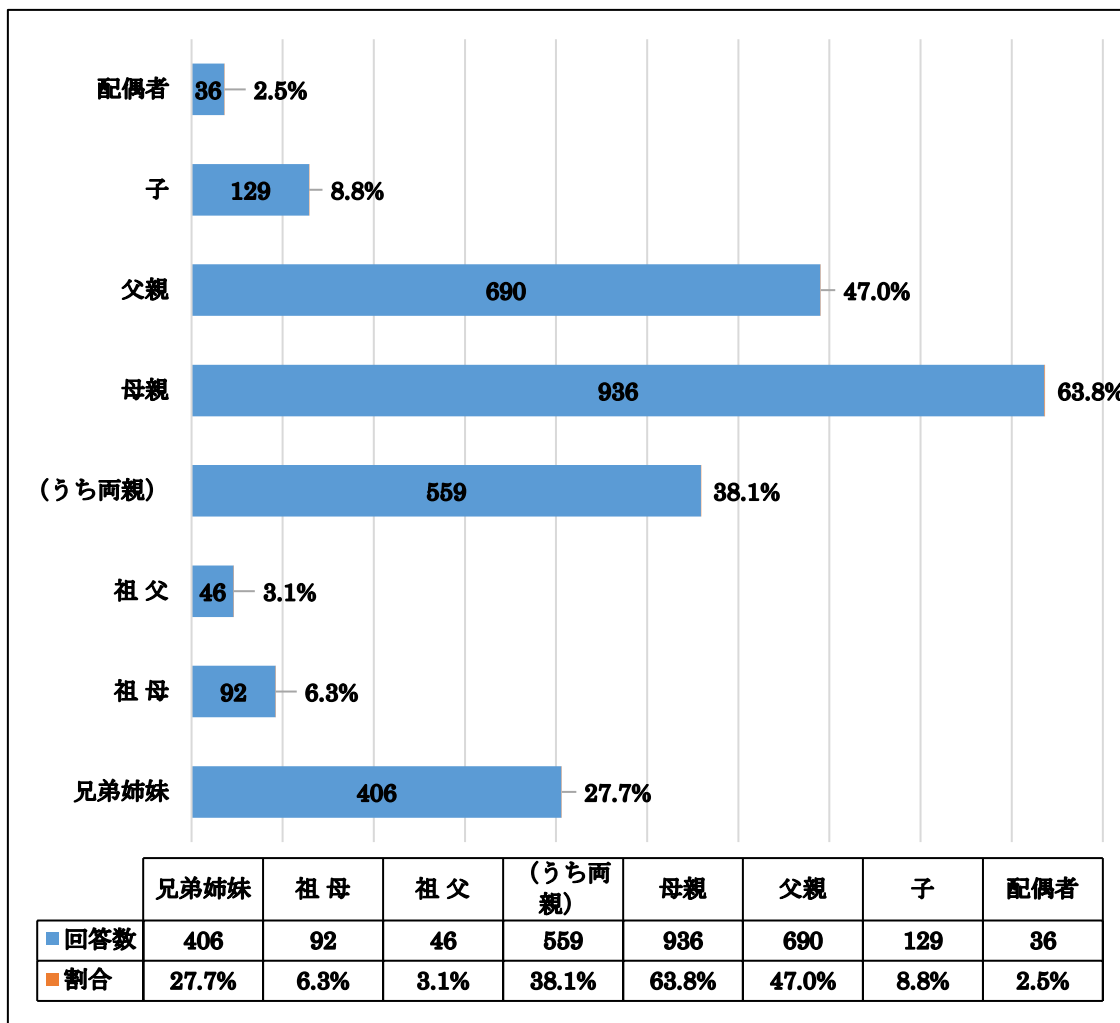
(対象人数 n=1,467)



ウ 該当する方の家族構成

家族構成を見ると、母親と同居している場合が最も多く 936 名、次いで父親が 690 名となっており、親との同居が多い結果となっている。一人暮らしを含めた無回答は 236 名となっており、該当者のほとんどは同居者がいることとなる。

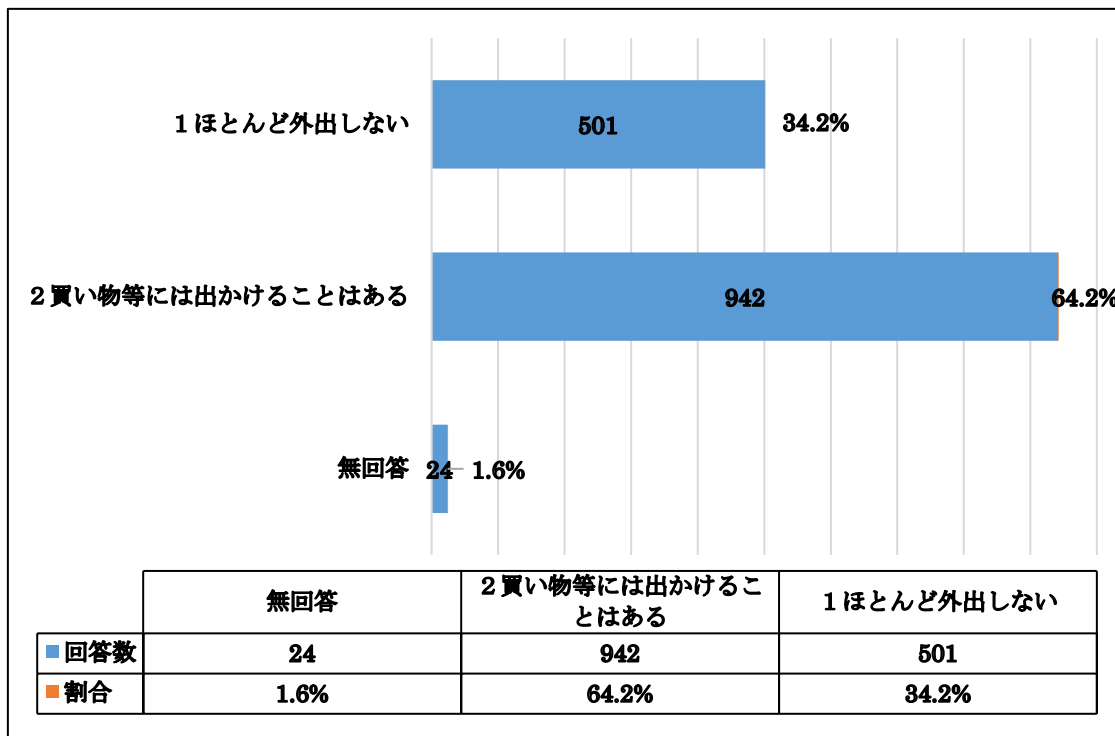
(対象人数 n=1,467, 複数回答可)



エ 該当する方の状況

ほとんど外出しない該当者は 501 人，買い物等には出かけることはある該当者は 942 人となっており半数以上は買い物等に出かけることはある。

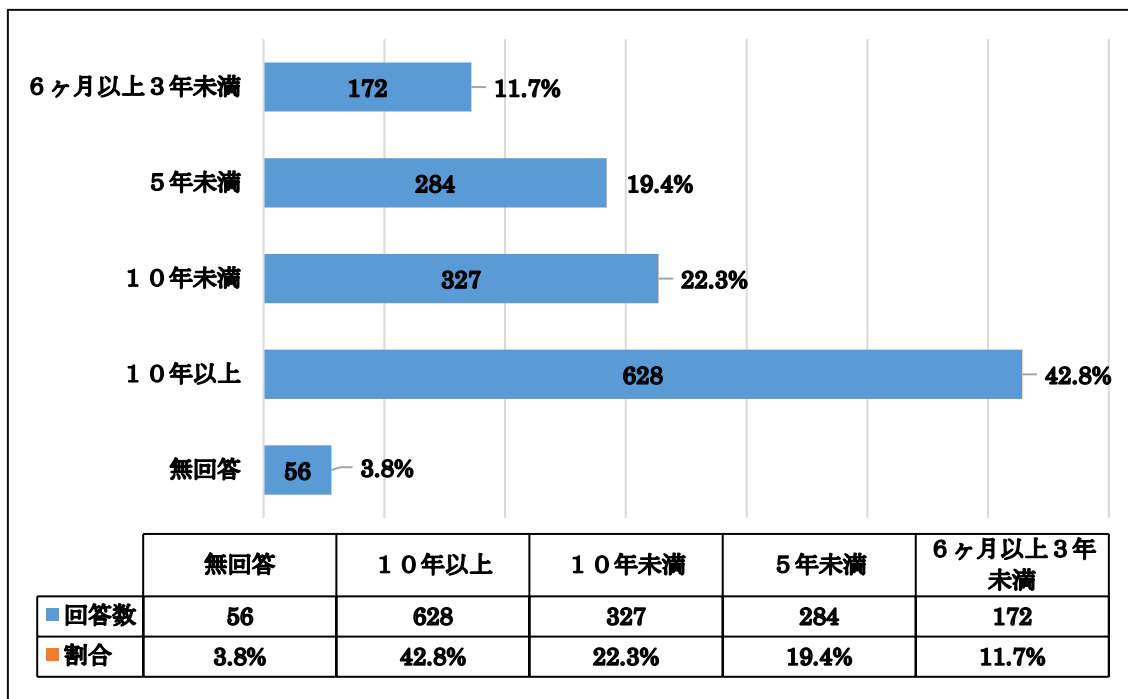
(対象人数 n=1,467)



オ ひきこもっている期間

10年以上ひきこもっている該当者が628人で最も多く、期間が長期になるにつれ該当者も増える傾向となっている。

(対象人数 n=1,467)

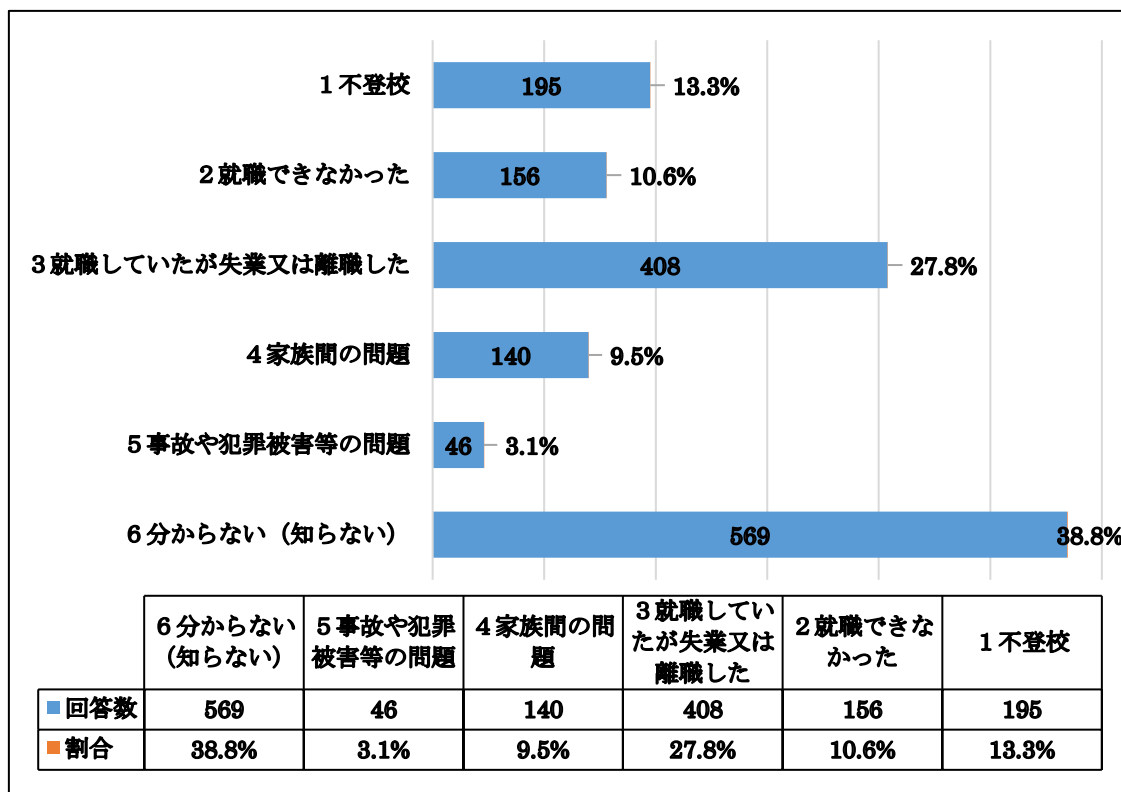


カ 経緯

最も回答が多いものは分からない（知らない）であり 568 人となっている。

ひきこもりに至った経緯として、「就職していたが失業又は離職した」が 408 人で最も多く、「就職できなかった」の 156 人と合わせると約 4 割を就労が占める。

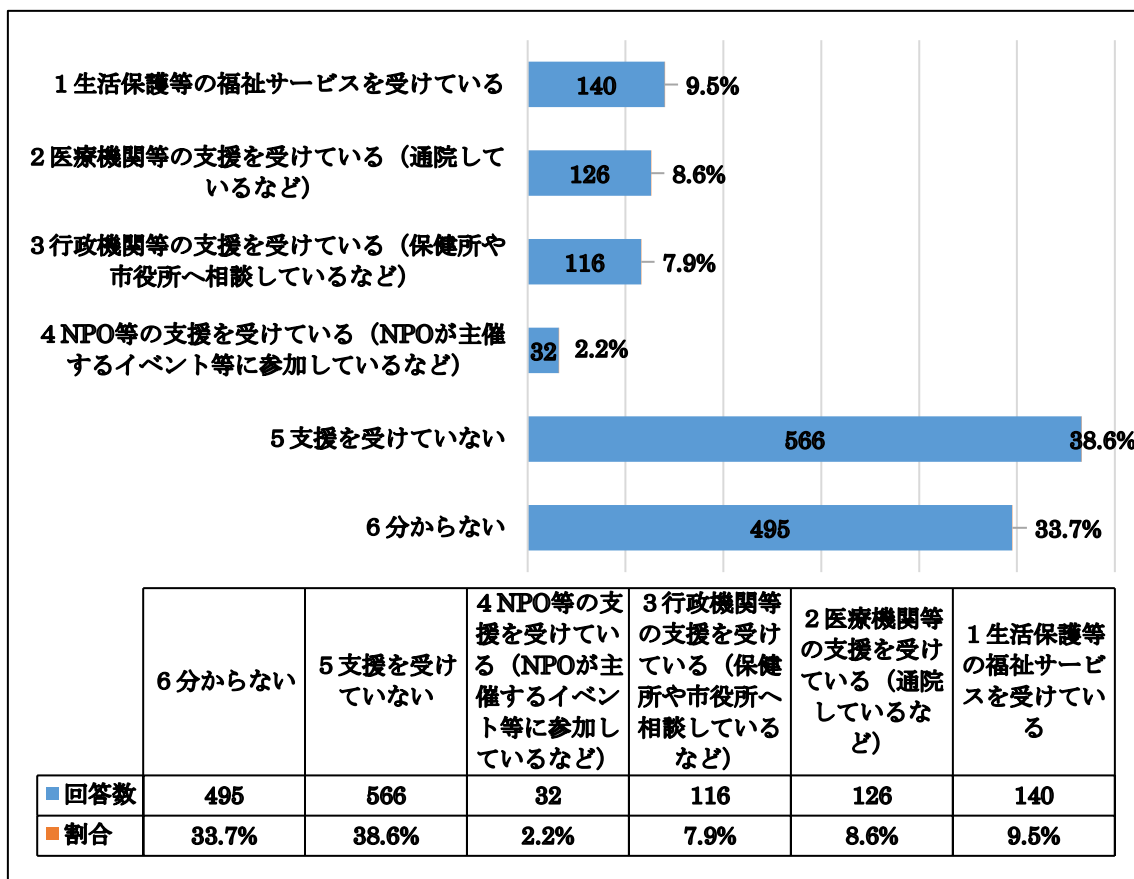
（対象人数 n = 1,467, 複数回答可）



キ 支援状況

支援を受けていないが最も多く 566 人、わからないが 495 人となっており、支援を受けている人は全体の 3 割に満たない。

(対象人数 n=1,467, 複数回答可)



ク 気になる点

- ・親が子のひきこもりを隠そうとする
- ・親が無関心
- ・経済的に問題ない
- ・親が高齢であり、亡き後が心配
- ・一人暮らしが結構いる
- ・親の年金暮らし

(5) 自由記入

- ひきこもりの情報があったら虐待の場合と同様すぐに対応できるような体制があればよいと思う。
- 把握が難しいです。
- 小中学生のひきこもり等は学校で分かるでしょうから民生委員にも伝えていただきたい。
- 各町内会毎にいつでも自由に行けるサロンのようなものがあるとお互いに心の支え合いや助け合いができるかなど。空き家の利用などで、できないか。
- 民生委員だけでは実態を把握するには困難です。自治会（町内会）や学校関係への働きかけも検討されてはいかがでしょうか。
- 気が付かないだけで実際はいるかもしれない。正確な事実は分からない。
- 担当の地域ではないがひきこもりの子ども（成人者）のいる家庭の親に対する支援・相談の充実を図る必要があると感ずる。老齢になり家庭内で暴力・暴言に苦しんで日々・悩んでいる人たちがいる。中にはひきこもりの本人（親）の支援が大切であるが現実は何の手立てもなく本人もどンドンひきこもって心を閉ざしている状況もある。また本人がひきこもっているという認識も薄い。本人が一番苦しいと思うが気づきを促す場の確保も難しい。どのように支援機関につなげていくことの難しさも感ずる。